

戸田川の生き物と水環境

1 戸田川の概要

戸田川は、中川区北西部を源として日光川へ流入する、延長約9.1kmの河川です。合流点から約7.2kmは一級河川として、残り約1.9kmは準用河川として指定されています。

流域は低平地に位置しており、昭和30年代から50年代にかけて地下水を過剰に汲み上げた影響で、著しい地盤沈下が発生しました。

このため、現在では河川の水は河口部の排水機場において、ポンプで日光川へ排水されています。また、近鉄名古屋線より南側の多くは市街化調整区域となっており、水田が広がる土地利用が続いています。



2 戸田川の生き物

戸田川では、2020年度に調査を行った結果、計17種の魚類が見つかりました。

タモロコやカワバタモロコなどの貴重な生き物が確認されています。

ブルーギルなどの特定外来生物が確認されており、生態系への影響が懸念されます。

- ★：名古屋市の絶滅危惧種
- ▲：特定外来生物
- ：魚が確認された区間

魚種	富永橋より下流	富永橋より上流
★タモロコ, ★スミウキゴリ, ★ウキゴリ, ヨシノボリ属		■
★カワバタモロコ, コイ, フナ属, タイリクバラタナゴ, オイカワ, モツゴ, スゴモロコ類, チチブ, トウヨシノボリ類, ▲カダヤシ, ▲ブルーギル	■	■
★ナマズ, ウキゴリ属	■	
種類数	13	15



★タモロコ



★カワバタモロコ



★スミウキゴリ



★ウキゴリ



タイリクバラタナゴ



▲ブルーギル

3 戸田川の水質

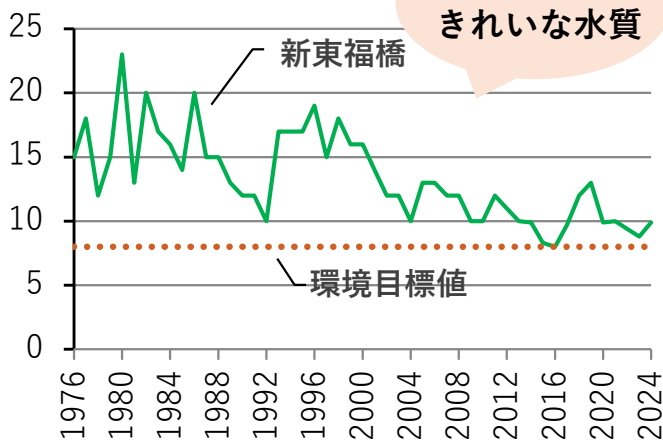
市街化が進んだことや家庭からの生活排水などが戸田川に流れ込んでいたことによって、川の水は汚れ、主に有機物による汚濁度合いを示すBODは、環境目標値8mg/lを超えていました。その後、下水道の整備によって汚水の流入が減り、水質は改善傾向にあります。

しかし、戸田川は、水源が乏しく、水が入れ替わりにくいことから、水中の栄養分(窒素やリン)が増加する「富栄養化」の状態が続いています。

この栄養分で成長する水草や植物性プランクトンが増殖し、日中、光合成をすることによって、水中に溶けている酸素の量(DO)は、高くなっています。一方、夜間は、水草や植物性プランクトンが呼吸することによって、水中の酸素が急激に消費されることから、水中の酸素が不足し、生物の生息が危ぶまれることがあります。

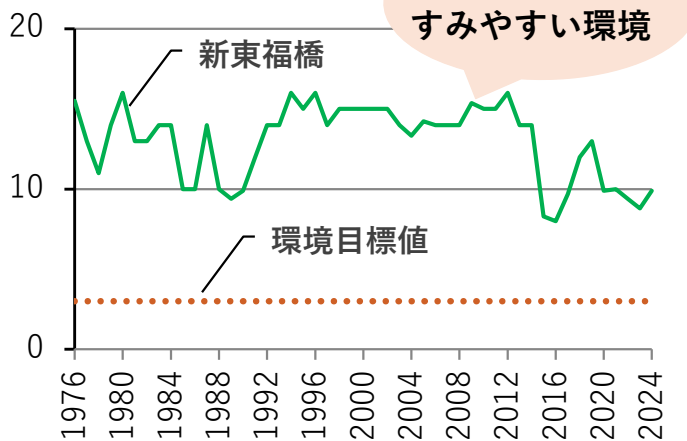
◆ 水質 (BOD,DO) の経年変化

BOD 75%値 (mg/L)



環境目標値：(1974年～)8mg/L以下

DO 平均値 (mg/L)



環境目標値：(1974年～)3mg/L以上

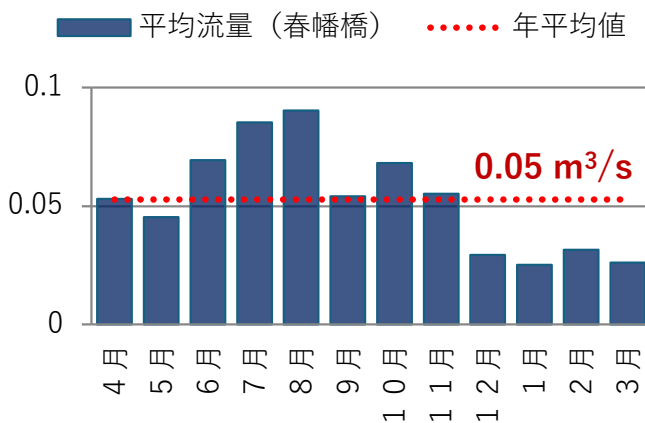
4 戸田川の流量

戸田川は、かんがい期には農業用水が流入しますが、それ以外の時期は雨水が流入するのみであり、水源の乏しい河川です。

戸田川の水がすべて入れ替わるまでの期間は、かんがい期(4～9月)で約9日、非かんがい期(10～3月)では約25日かかると推定されています。

※戸田川排水機場から日光川へ排出された水量の実績から試算

◆ 月別平均流量 (m³/s)



(2015年度～2024年度)